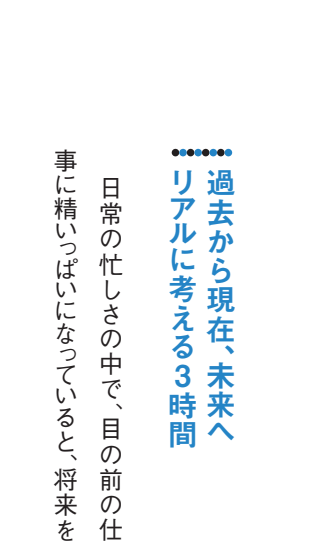


教師が考える

# 未来の学校・教育を教員同士で語り合うワークショップ



過去から現在、未来へリアルに考える3時間

日常の忙しさの中で、目の前の事に精いっぱいになっていると、将来を

日頃、生徒の未来を考えることは多くても、先生自身が、未来の学校や教育に関して改めて考える機会は、意外に少ないのではないのでしょうか。そこで、忙しい日常から少し離れて、さまざまな学校の先生同士で未来を語り合うワークショップを実施してみました。

図1 授業案

時間	STEP	セッション名	概要	ねらい	実施ポイント
25分	OPENING	アイスブレイク	ワークショップの概要説明ののち、グループ内での自己紹介を兼ねた語りと、アイスブレイク。	目的の理解、アイスブレイク	グループ分けは、日頃あまり話したことがない人同士や、役職・肩書などもバラバラになるように。
40分	STEP1	自己振り返りセッション	先生自身が、なぜ教師になろうと思ったのか、これまでの教師人生で一番うれしかったことなどを語ることによって、原体験や軸の再確認をする。 (1)相互インタビュー(ペアワーク) 30分 ヒアリングシートをもとにインタビューをし合う。 (2)他己紹介(グループワーク) 10分 インタビューをした相手のことを、グループの人に紹介する。聴いている人は、話の内容から「すてきだなと思ったこと」「大切にしたいと感じたこと」などを付箋にメモし、本人に渡す。	過去を振り返る(自分を再確認する)	ペアでインタビューをする際は、自由に場所を移動して、話がしやすい雰囲気を。「発見」や「相手をよりよく知ることを楽しむように促す。
45分	STEP2	ありたい姿／ありたくない姿セッション	教員として、「ありたい姿／ありたくない姿」を書き出し、シェアする。 (1)付箋に思いつくまま書き出す(個人ワーク) 5分 (2)「ありたい姿」「ありたくない姿」の枠を模造紙に書き、それを壁に貼って、全員の付箋をそれぞれのコーナーに貼り出していく。さらに、似た内容同士をグルーピングし、タイトルをつける(グループワーク) 30分 (3)グループで出た内容を、全体シェア 10分	現在を確認する(想いを明確にする)	模造紙の真ん中で、ありたい姿／ありたくない姿を分け、それぞれのスペースに自由にグルーピングする。
30分	STEP3	20年後の未来セッション	20年後の未来、勤務校が「すごい高等学校50選」に選ばれたと仮定して、どういう学校として選ばれたかを考える。 (1)模造紙に、グループで自由に回答を書き込んでいく(グループワーク) 20分 (2)グループごとに発表 全体シェア 10分	未来を考える(あるべき未来を考える)	模造紙には、自由に思ったことを絵でも言葉でも、どんな書き出しをしていくことを促す。整理せず、汚すことを楽しむように促したい。
5分	STEP4	明日から取り組んでいきたいことセッション	これまでのセッションを受けて、3つの観点で自分のアクションプランを立てる。 ①Start…新しくはめたいこと ②Stop…もう止めたいこと ③Continue…続けていきたいこと(個人ワーク)	未来と自分をつなげる(日常につなげる)	3つの項目、それぞれに1つずつ、明日からすぐに取り組みたいことを記入していくように勧めます。
20分	CLOSING	ダイアログセッション	STEP4で作成したアクションプランと、今感じていることを全体に発表し共有する。	再確認と期待感の共有	円陣を組むなどして、全員で話をし、思いを共有します。

※途中、適宜5～10分の休憩を入れていきます

見据えた教育や教員像を考えることが、なかなか難しい。しかし、遠い未来から俯瞰してみると、今やっていることの意味やなすべきことの、意外な発見や気づきがあるもの。最近では企業でも、日常業務から離れて未来や自分を考える研修が増えている。そこで、そんな企業内研修を参考に、先生同士が多いに語り合う3時間のワークショップを実施した。

基本的な考え方としては、先生自身がそもそも教員になろうと考えた原体験や、そこで感じてきたやりがいなどの「過去」を振り返ることで、「現在の」先生が考える教育・教員像を見つめ、あるべき「未来」への姿を思い描くというもの。

関東近郊の8つの高校から19名の先生方に集まっていた。そんな先生たちの様子とプログラムの実際を、次ページ以降で具体的にご紹介しよう。

松戸高校(千葉・市立)角田健一先生・石川瑛子先生、関東第一高校(東京・私立)横山北斗先生・丸橋由佳先生・長尾航先生、専修大学附属高校(東京・私立)皆川雅樹先生、港北高校(神奈川・県立)井上由一先生・宮本恵理子先生・田島利枝先生・金子大和先生、川崎北高校(神奈川・県立)関原隆志先生、藤沢清流高校(神奈川・県立)小島昭彦先生・長谷川智司先生・日野裕紀先生、富士市立高校(静岡・市立)遠藤健先生・吉村順先生・岩田春菜先生、富士市教育委員会／富士市立高校(静岡・市立)眺野大輔先生、浜松北高校(静岡・県立)大村勝久先生



注：所属校は、2015年3月取材時のものです。



## OPENING & STEP 1

### 過去 自己振り返りセッション

今の考え、感じなど  
自由に1分ずつ語る

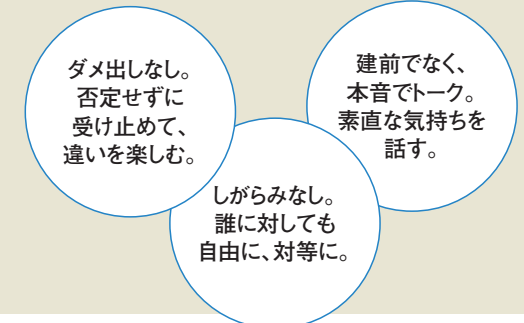
テーブルごとに「みかん」「いちご」「バナナ」「ぶどう」「すいか」と果物の名前をつけ、できるだけ知らない人同士、4人一組で座ってもらおう。それぞれ「今の正直な気持ち」や「気になっていること」を自由に1分ずつ話す。突っ込みや笑いをとることをせず、ありのままに話せるように促され、自由に話し出した。

#### <アイスブレイク> 餃子じゃんけん

今回は、アイスブレイクとして「餃子じゃんけん」を実施。  
(内容とルール)  
● グループごとにじゃんけん。ただし、普通のじゃんけんではなく、目標は「餃子」をつくること。  
● グーが肉、チョキがニラ、パーが皮  
● 全員がグーなら「肉だけ!」同様に、「ニラだけ!」「皮だけ!」。チョキとパーだけなら「肉がない!」「(同様に、「ニラがない!」「皮がない!」。すべての具が出そろったら「いただきます!」と、声をあげる。  
● 3分間で、いくつ餃子ができるか。最終的には、一番多く餃子ができたチームを拍手で表彰!



#### <グランドルール> 3つのルールのもとにスタート



#### 過去を振り返って 原点に触れる

最初のセッションは、それぞれの「原点」に触れる。  
そもそもなぜ教員を目指したのか。また、教員人生の中で最高にうれしかったことは何か。など、過去の自分の振り返りをしてもらった。

#### (1) インタビューし合う

二人一組になり、インタビューシートの内容(3問)を、それぞれに聞き出す。インタビューをし合う場所は、部屋の中だけにとどまらず、自由に移動して可。今回は、高層フロアだったこともあり、外を眺めながらの休憩ソファが大人気。



自己振り返りインタビューシート

聞かれる人の名前: \_\_\_\_\_

聞く人の名前: \_\_\_\_\_

①OOさんが教員を志したきっかけとなる出来事。その経緯などを改めて出来る限り詳しくお聞かせください。  
memo \_\_\_\_\_

②OOさんのこれまでの教員人生を振り返っていただき、その中でも最高に嬉しかった出来事、経緯などを語り、出来る限り詳しくお聞かせください。  
memo \_\_\_\_\_

③先ほどお話し頂いた素敵な出来事。OOさんは、なぜ最高に嬉しい気持ちになったのだとお聞かせいただけますか? 思い浮かぶ順序で結構ですので、お聞かせいただけますでしょうか。  
memo \_\_\_\_\_

Source: Planning Partners Co., Ltd.

#### (2) 他已紹介

グループに戻り、インタビューした相手のことを、「○○先生が教員を目指したきっかけは〜」で、他のグループメンバーに紹介。時間はそれぞれ2分くらいで。聴き手は、その話で共感できたことや、感動したことなどを、どんなメモし、最後に本人に手渡す。人それぞれのキッカケや想いに、思わず拍手が出る。

#### セッションを終えて

「学生時代に教職を取ったときから、教育実習、初めての卒業生、そして今年の卒業生まで、すべてを振り返ることができた。自らの教員としての足跡、なぜ続けているのか、何が楽しみなのかがあった」(浜松北高校・大村勝久先生)  
「教員になった理由をゆっくり話すということは、初めてでした。お互いに質問する中で、自分がこの職を選んだ理由を改めて思い出し、よい刺激になりました」(藤沢清流高校・長谷川智司先生)  
「普段こういうことを話す機会がなかったので、改めて人に話すことで気づくことがあった」(富士市立高校・岩田春菜先生)





## STEP 2

### 「現在」 ありがたい姿／ ありがたい姿セッション

日常を思い出しながら  
教員像を考えてみる

教員としての自分の原点を振り返ったあとは、「現在」に意識を移す。教員として「ありがたい姿」「ありがたい姿」を出していき、グループごとにその内容を整理し、どのような教員像を抱いているかを再確認した。

日常の自分の経験や、かかわってきたさまざまな教員仲間のことなどを思い浮かべながらのワークが続く。



例えば、ありがたい姿で「生徒との関係づくり」があると、それとは逆に「生徒とかかわらない・嫌い」がありがたい姿となるなど、それぞれ対になるようなグルーピングを行った。

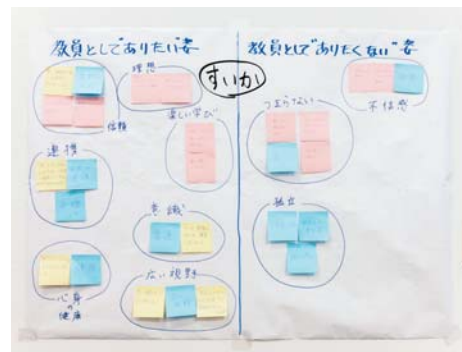


英語の教員が多かったグループは、グルーピングのワードもすべて英語で行った。特に、ありがたい姿では「LOVE」を強調。教員には「愛」が大事だと結論つけた。



生徒を第一に考えたり、オープンマインドなどを、「私」とくっつけてみたり、「ガッツ!!!」「プレプレ」「しわしわ、よれよれ」など、グルーピングのワードに個性が光った。

ありがたい姿は「つまらない」「不信感」「孤立」。一方、ありがたい姿は「信頼」や「理想」、「連携」、「楽しい学び」、「心身の健康」など、「普通であることの大切さに気づいた」という。



### セッションを終えて

- 「教師としての自分を、もう一度振り返ることができた」(港北高校・宮本恵理子先生)
- 「スタイルの違い、しかしそこに共通して流れる教員という職業哲学のようなものを感じた」(関東第一高校・長尾航先生)
- 「ありがたい姿を共有できる仲間がまだまだたくさんいるのだ、ということを実感でき、心強く、自信になりました」(富士市教育委員会・眺野大輔先生)
- 「個人個人の違う言葉から、チームで協力しながら共有化できたことが、とてもおもしろかったです」(松戸高校・石川瑛子先生)



「可能性を信じる」「対話ができる」「仕事を楽しむ」「挑戦する」など、さまざまなありがたい姿が出る中で、長い目で物事をとらえる「経営できる」教員像が出てきたという。



2035年、雑誌で「すごい高校50」  
にあなたの勤務校が選出されました。  
どんなことが評価されている？

<ポイント>

模造紙の真ん中に、このお題を書き入れて、  
その後は自由にメンバー全員が  
思いついたことを、どんどん記入していく。



これは、最初からグループワークで、  
全員がペンをもち、模造紙に思いつい  
たことを、絵でも言葉でもどんどん書  
き出していく。模造紙を「楽しんで汚  
す」気持ちで取り組み、発想を広げて  
いくことが肝心だ。

## STEP 3

### 未来 20年後の 未来デザインセッション

未来、成功している  
自分たちの姿から考える

過去から現在を考えたところで、  
次は「未来」から教育を考える。しか  
し、漠然と「未来」と言われてもなか  
なか想像しづらいので、20年後にグル  
ープメンバー全員が同じ学校に勤務  
し、5年かけて取り組んだ教育が、雑  
誌で「すごい高校50」に選ばれたとい  
う設定とする。そして、具体的にどう  
いう理由ですごい高校に選ばれたか  
を考えるというワークだ。

世界につながる学校。生徒のフェイス  
ブックの友達は、外国人が50%以上。  
留学生を積極的に受け入れ、海外の  
生徒との交流なども積極的に行って  
きました。地域の学校として、小さい  
子どもから高齢者まで含めた地域  
活動の拠点としても機能する、多  
様性が評価されました。



先生たちは、こう考えた!

テクノロジーの発達により、さまざまなことが  
直接対面なしで成立する時代。だからこそ、  
あえて時代に逆行し、人間味のある学校、人  
との付き合い方を重視します。そういう学校  
の存在が、未来社会で「自立」した生徒を育  
んでいることを評価されると考えました。



20年後、宇宙からの授業も実現してい  
そうな時代。そもそも学校は存在するの  
か？ そう考えたとき、学校という場に  
しっかり生徒が通っていることが、逆  
に評価対象になると考えました。遅  
刻や欠席もなく、あいさつや礼儀な  
どがきちんとできる。そんな古典  
的な視点で評価されました。

教育状況を整える視点が評価されました。一  
つは、学校現場での労働条件の改善。それ  
によって、より良い先生が集まり、教科指導  
や進路指導、部活動など、専門化した教育  
体制を実現。二つめは、生徒自らが進める授  
業の実現。三つめは、生徒が学びたい場所  
へ自由に行ける教育の実現です。

### セッションを終えて

「今、本気でやらなければ!と、改めて感じました。実行し  
なければ意味がない!!」(富士市立高校・遠藤健先生)  
「グループ内はもとより、皆さんのアイデアを共有するこ  
とができ、明日以降の自身の在り方、学校での取り組み  
に対して示唆をいただけました」(藤沢清流高校・小島  
昭彦先生)  
「参加されている方々の、飾らない言葉を聴けたのが良  
かったです。言葉のエネルギーを感じました」(関東第一  
高校・横山北斗先生)

地域や企業から大きな信頼を得ている学  
校。例えば、どこでも気軽に移動できる手  
段が実現していて、生徒は教室に在り  
ばかりではなく、興味のままに世界中に出  
かける。実際にやってみる、経験から学  
ぶ、プロジェクトで動くなど、世の中  
の常識を変える実行力が評価され、高  
い評価を得ました。





Start/Stop/Continueシート

名前: \_\_\_\_\_ /

Start (新たに始めたいこと)は・・・

Stop (もう止めたいこと)は・・・

Continue (変わらずに大事にしたいこと)は・・・

Source: Planning Partners, LLC



## STEP4 & CLOSING

### 明日から取り組んでいくこと

翌日からの具体的な  
アクションプランを考える

過去から現在、未来を考えてきたセッションを踏まえたうえで、翌日から自分が取り組みたいと思うことを、3つの項目に関して考えていく(ワークシート参照)。

あれもこれもではなく、各項目に1つずつで構わないので、実現可能なことを書いていくことが大切。それによって、あるべき未来へ向けた新たな目標として役立つはずだ。

アクションプランの宣言と  
感想で締めくくる

ワークシートの最後は、全員で円陣を組んで、STEP4で書いたアクションプランと、ワークシートを実践して「今感じていること」を全員が発表する。話す順番は、ファシリテーターが指示をするのではなく、任意で。今回は、発表した人が次以降の人を指名する。ぬいぐるみを準備し、それを渡された人が次の発表者となった。

#### 最後のダイアログ抜粋

##### 新たにはじめたいことは・・・

「高大接続の動きを、具体的に形にしていきたい」

「今までと違う授業にチャレンジしていきたい」

「学ぶこと。先輩の先生方からもたくさん学びたい」

「ありがたい姿／ありがたい人になることが大事だと思った。そのためには、趣味も大事。趣味を作ろうと思った」

「生徒も学んでいるのだから、中断していた資格や検定の勉強を再開して、学びたいと思った」

「先を見据えながら行動したいと思う」

#### START

##### もう止めたいことは・・・

「新しいこと、ワクワク楽しいと思うことに、積極的に挑戦していきたい」

「他の先生たちから『ちょっといいですか』と声をかけられたとき、ニコッと笑って対応できる余裕をもつ」

「来年、海外で学ぶチャンスをもたらしたので、それに向けてしっかり準備を始める。なんでも学ぼうという気持ちで取り組む」

「過度の残業」

「自分で限界を作ること。殻を破り続けていきたい」

「もう止めたいと思うことがない自分は、とても幸せだと感じた」

「無理に変えようとしなくていい。自分も他人も、やりたいことを大事にしたい」

「自分がやらなければ・・・と、抱え込みすぎない」

「溜息をつくこと、厳しい表情をすること」

「めんどうくさい！を言わない」

#### STOP

##### 変わらずに大事にしたいことは・・・

「英語を好きで学び続けること、授業の力」

「楽しみながらチャレンジすること」

「生徒との関係性。いろいろ話してくれることを大事にしたい」

「今日改めて、なぜ教師を続けてこられたか考えたら、生徒たちから人として認めてもらったと感じる瞬間があるから。そういう人でいられるように努力し続けたい」

#### CONTINUE

「生徒を一番に思うこと。毎日、些細なことでも楽しむこと」

「人のために、を大切にしていきたい」

「仕事にも、自分自身にも、付加価値をつけていくこと」

「同僚や生徒との協力。授業そのものを工夫し、生徒が思考して学び、楽しめるような授業を目指すこと」

「生徒を思う心、愛では、日本一、世界一の教員を目指すこと！」

#### 教員同士が語り合う機会を、ぜひ！

ワークシートの最後に、「今、感じていること」を一言ずつ語ってもらったが、多くの先生が「こういうことを誰にも話したことがなかったので、新鮮で楽しかった」とコメントした。「教員をしていてうれしかったことが、自分の理想像と重なる部分が多く、自分でも驚きました」「最初は、教員になっただけか、話を話すのは嫌だなど思ったけれど、話してみると、改めて自分は教員に向いているのかもと思い、語って良かったと感じました」など、口に出して初めて、自分を客観的に整理できた様子が伝わる。また、「未来を考えたことで、実際に世界とどうつながっていくか。すぐにも実行に移してみたいアイデアをいろいろもらえた気がします」など、次の一歩へのヒントも得られたようだ。多くの先生たちに、自分を、未来を語ることで、元気になったというだけの機会でもあったようだ。